多賀台小

自分の考えをもち、進んで表現する子の育成

～児童の思考に寄り添う授業づくりを通して～

（３年計画の２年次）

校長　　竹　花　剛　二

１　研究主題について

本校では、教育目標として「心豊かに　たくましく」、努力目標として「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「体をきたえる子」を掲げ、物事を自分事として捉えたり、相手の立場になって考えたりすることができる児童、物事を関連付けて考えることができる児童の育成を目指している。

昨年度は、「問いを引き出す学習課題の設定」「主体的・協働的に課題を解決させる働きかけ」「自己の変容に気付かせる振り返りの工夫」についての研究を進めてきた。問いを引き出す課題の提示や発問の工夫をすることにより、児童は意欲的に課題に向かい主体的に学習に取り組むことができるようになってきた。また、自分なりの考えをもたせ、自分の考えを他者と比較しながら話し合う場面を設定し、解決に向かわせることができた。しかし、考えを広げたり深めたりするような活動をするための指導者の働きかけには課題が残った。また、単元を通した振り返りや１人１台端末を活用した振り返り等を通して、振り返りの有効性は実感できたが、自己の変容に気付かせるまでには至らなかった。

そこで、これらの成果と課題から、今年度は、「児童の思考過程を大切にした授業づくり」を土台とし、さらに児童の思考に寄り添った授業づくりの研究を進めていく。まずは、児童が思考したくなる学習課題を設定する。児童の実態や事前テストの結果などを基に、児童が自分事として課題を捉え、必要感や切実感をもつことができる課題を提示したい。次に、深い学びにつながる対話の工夫をする。児童の様子を観察し、多様な考えを引き出すためのしかけや思考を深める発問など、その状態に合わせた適切な働きかけをすることによって、深い学びが実現できると考える。そして、自己の学びを確かめる振り返りを積み重ねることにより、児童に「わかった！できた！身についた！」を実感させたいと考える。

２　研究のねらい

児童が問題を解決する際に、児童の思考に寄り添うことを意識した授業づくりを行うことが、自分の考えをもち、進んで表現する子の育成に有効であるということを授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

児童の思考に寄り添う授業づくりのため，児童が思考したくなる学習課題を設定し、多様な考えを引き出すためのしかけや思考を深める発問など、深い学びにつながる対話の工夫をした授業を展開する。そして、児童が自己の学びを確かめる振り返りを積み重ねることにより、自分の考えをもち、進んで表現する子を育成できる。

４　研究内容

(1) 児童が思考したくなる学習課題の設定
(2) 深い学びにつながる対話の工夫
　ア　多様な考えを引き出すためのしかけ
　イ　思考を深める発問
(3) 自己の学びを確かめる振り返り

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師
6	3	教育指導課・総合教育センター訪問（計画訪問） 第１回授業研究（３学年）永澤　舞梨　国語「まいごのかぎ」 講師：八戸市教育委員会　教育指導課　主任指導主事　福田　秀貴　氏
9	28	授業公開（２学年）児玉　友絵　国語「どうぶつ園のじゅうい」
11	8	授業公開（６学年）吉田　彰子　道徳「ブランコ乗りとピエロ」
11	16	第２回授業研究（５学年）福士　貴人　算数「単位量当たりの大きさ」 講師：三八教育事務所　教育課　指導主事　前川原　泉音　氏
11	21	授業公開（４学年）類家　直人　国語「プラタナスの木」
11	29	授業公開（１学年）佐々木　禅　算数「ものとひとのかず」
12	7	授業公開（Ｔ・Ｔ）河原木　直美　６年算数「場合の数の調べ方」
12	8	授業公開（すずかけ）寺下　真彩子　算数「割合」（５年） 授業公開（わかば）伊藤　直子　算数「そろばん」（5年）「□を使った式」（6年） 講師：八戸市教育委員会　八戸市こども支援センター 特別支援教育アドバイザー　上澤　司　氏 指導主事　三浦　祐子　氏

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
6	15	学力検査（ＣＲＴ）の分析・考察
7	6	救急救命講習 講師：日本赤十字社水上安全法指導員　南郷屋内運動場　館長　下田　尋通　氏
7	20	教育課程研修
8	19	特別な支援を要する子への手立て 講師：八戸市教育委員会　こども支援センター　指導主事　三浦　祐子　氏
8	31	県学習状況調査の採点・分析・考察
9	7	１人１台端末の活用 講師：本校教諭　吉田　彰子　　福士　貴人
9	21	器械運動についての研修 講師：本校教諭　類家　直人
12	7	全国学力・学習状況調査の分析・考察

６　研究の成果

(1) 児童が思考したくなるような学習課題設定を行うことにより、解決の必然性や意欲を引き出すことができた。また自分の立場を明らかにすることで、自分事として課題を捉える児童が増え、主体的に学習に取り組むことができるようになってきた。

(2) 多様な考えを引き出すために話合いの形態を工夫したり、問い返しやゆさぶりなど思考を深めるための発問をしたりするなどの対話の工夫をすることにより問題解決に向かわせることができた。

(3) １人１台端末を活用することで、課題を把握したり考えを共有したりする場面において、特に意欲的に学習に向かわせることができた。

７　研究の課題

(1) 児童同士の対話を通して深い学びにつながるよう、話合いの視点を明確にしたり、伝え合う方法を更に工夫したりしていく必要がある。

(2) 自分事として課題を捉える児童が増えてきているが、その課題意識を最後まで持続させ、「わかった！できた！身についた」が実感できるような授業づくりをしていく必要がある。

（記入者　児玉　友絵）